

令和7年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

- 1) 単独では移動が困難な方々が外出することで生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して互助の精神のもと参加型福祉の実現に務めました。地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

車を使つての介助付き移動サービスを福祉有運送の制度の下で続けました。

市主催の運転者講習会が、今年度も実施されました。今一番の課題である担い手不足はすぐには解決していませんが、この講習会を受講して新たに4名がメンバーに加わりました。

新規の利用者が毎月平均10名のペースで増えるなか、動けるメンバーで何とかやりくりをしながらの活動が続いています。昨年度に比べ利用件数等はほぼ横ばいでした。メンバー拡充のための取り組み、環境整備、基盤整備強化のための取り組み等を進めました。

- 利用目的は通院が多く、利用回数では全体の半分以上を越えます。リフレッシュや買物付添などは、コロナ禍前と比べると減少傾向が続いていますが、社会復帰に向けた買物付添などのニーズもあります。タクシーの予約ができないなどの社会状況もあり、また、独居の高齢者や若年障がい者など、新規入会が多くあり、介助付きの外出支援はますます必要とされているといえます。日々の運行管理や新規の方のコーディネート等にも細やかな配慮を求められることが多く、できる限り丁寧に対応しました。
- 会の財政状況に鑑み、3年前に改定した料金体系で見えた課題に対応するため、来年度から利用料の一部改定を実施することにしました。
- 限られた条件のなかで、ニーズにはできるだけ応え、年末年始も休むことなく活動しました。しかし、新たな依頼をお断りすることは以前より増えています。通院・入退院・通所・通学・ショートステイのほか、買物付添やリフレッシュ・墓参などの様々な依頼に応えました。年度途中から透析の方の利用が再開され、また、医療的ケア児通学支援が始まりました。
- 独居や高齢者のみの世帯、また、抗がん治療の通院など、手厚い支援を必要とする利用者は増え続けています。ケアマネジャーや地域包括支援センター、市の関係部署などとの連絡を密にとり、活動を進めました。
- 正会員は加入が9名、退会が4名で、3月末現在の会員は51名、内、日々の活動に参加している会員メンバーは34名（内、運転会員20名）です。運転会員は、4月から主力メンバーの一人が元の職場に戻り休会、また、75歳の誕生

日を迎えた 1 名が内規に従い 6 月に運転を卒業、さらに、12 月をもって 70 歳になる主力メンバーが運転を卒業しました。一方、4 名が運転メンバーとして活動し始めました。運転メンバー不足の厳しい状況が続きます。昨年度中に主力メンバーの運転の卒業が続いたことは、今年度の活動にも大きく影響しました。

- 他の仕事などとの掛け持ちや家族の介護などのため、常時活動に参加できるメンバーは少ない状況です。また、メンバーの年齢もあがってきて、腰痛などの支障も出てきています。車いすのまま複数体制での階段の上り下りを担当できるメンバーは益々限られ、その部分は他事業所にお任せすることも増えています。
- 会所有の福祉車は 3 月末現在、リフト式のキャラバンが 2 台、スロープ式の日産バンネットと N-BOX の合計 4 台です。持込セダンの登録は 15 台です。
- 事故はありませんでした。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから 22 年目（8 期の 1 年目）となりました。協働事業協定書にもとづいて、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4 台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。
- 会存続のために運転者の確保は喫緊の課題です。かねてより要望していた市主催の運転者講習会が 8 月と 11 月に開催されました。広報についても市に働きかけを続けてきました。
- 毎年 1 回の「広報やまと」への掲載は、福祉有償運送団体と運転者講習会のお知らせがありました。ホームページの改善は見られましたが、広く福祉有償運送が周知され、担い手が増えるような更なる取り組みを期待します。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。必要に応じ、担当課との調整を行っています。
- 昨年度県立支援学校から「医療的ケア児通学支援事業」対象者の打診を受け、支援体制を整えました。

今年度から利用が開始されました。ご家族のレスパイトや社会参加も本事業の目的ととらえ、今後も通学支援に取り組んでいきます

- 市が設置している「大和市地域公共交通協議会」にケアびーくるから委員として参加し、福祉の視点から交通についての意見を述べました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携しています。
 - ・コミュニティ・オプティマム福祉地域協議会 大和
 - ・（一社）市民連帯経済つながるかながわ
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ協会
 - ・（認定 NPO）かながわ福祉移動サービスネットワーク

- ・(NPO) 全国移動サービスネットワーク
- ・大和市民活動センター
- ・(社福) 大和市社会福祉協議会

3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共有に努めました。車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。また、引き続き、感染対策に取り組みました。

ニーズにきめ細やかに対応できるよう、運行管理者、運転会員で情報共有を図っています。常時心掛けている、利用者の「安全と安心」の確保はもとより、感染症リスクから身を守るための取り組みを引き続き実施しました。

- 車を使つての活動は、いつも神経を使います。様々な感染症が季節を問わず注意が必要です。三密を避ける、車内換気、アルコール消毒、マスク着用等の対応は引き続き行っています。メンバーの一人ひとりが緊張感を持ち、かつ利用者の方々への共感を持って活動を進めました。
- メンバーが講習会や研修に参加、あるいは Web 会議に参加し、日頃のワークに生かしました。(安全運転講習会、学習会等)
- 運転に関して定年を定めたケアびーくるの内規に則り、73 歳の節目で 2 名が内部の運転研修を実施し、その後も運転業務を継続しています。
- 必要に応じ、ストレッチャーやフルクライニング車いす、スマートレストなどの扱い、福祉車両の操作や車いす固定操作の再確認、車いすからセダンへの乗り込み等々の研修を、個別対応で行いました。新加入の運転会員には同乗研修を行いました。
- 福祉車走行中の車いす利用者の安全確保のため、後付けのヘッドレスト「スマートレスト」を、福祉車 4 台に備えて活用しています。
- また、車いす使用時の安全のための固定ポーチと固定ベストを備えています。
- シートベルト用補助具を全車両に備えました。また、車いすでの座位を保つため、ハーネス型の車いす用安全ベルトを購入し活用しています。
- JAF に加入(福祉車 4 台)し、緊急時に備えました
- 運行管理は新人メンバーが 1 名増え、8 名で担当しています。日ごろから連絡を密にとり、正確な対応ができるよう努めました。
- 毎月の定例会で、安全で安心なサービス実現に向けて情報交換を行い、サービス提供に生かしました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- 緊急時などには LINE も活用しています。

4) 今後の会の活動の存続を見据えた方策に引き続き取り組みました。

日々の活動に追われながらも、今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりを心がけました。担い手の拡充を図るべきところ、社会的状況として定年年齢の延長があり、生活のために働

かなくてはならない人が多く、有償ボランティアであるケアびーくるへの勧誘が思うようにならない状況は続きます。

- 担い手不足を解消するため、運転の定年延長を検討しましたが、安全・安心の確保を重視してメンバー拡大の取り組みを続け、定年については今まで通りとするという結論になりました。
 - メンバー募集のリーフレットは市の運転者講習会で配布していただく等、機会を見て活用しています。簡易なチラシも会合での声掛けの時などに配布しました。メンバー募集のポスターは、駐車時に福祉車に掲示しています。市掲示板への掲示は、市の意向を受け年度途中で掲示を止めました。
 - リーフレットなどを つながり推進課、社協ボランティアセンター、市民活動センターに配架していただいています。
 - ハイエースの更新のため、日本財団の車両助成に日産バネットで応募し採択されました。3月末に納車され、操作についての研修を行いました。
 - ハイエースは今年2月の車検前まで17年間の長きにわたり稼働しました。24時間TV事務局と連絡をとり、廃車処分になりました。
 - 会所有の福祉車は、日産バネットが新車、新キャラバンが5年目、N-BOXは8年目、てのひら号は11年目になりました。
 - 福祉有償運送の登録更新を6月に行いました。
 - 指定NPO法人の登録更新は検討の結果、今回は行わないことを決め、手続きをしました。
 - 大和市腎友会の事業撤退に伴い、利用者の引継ぎをしました。
 - メンバーのスキルと知見を活かし、昨年度、運行管理表の一部を自動計算化しましたが、更に微調整し、事務作業の効率化を図りました。運行管理者の負担も軽減されています。
- 現場での計算アプリも活用しています。
- 今年度も県・市社協助成金を受け、車両保険の一部に当てました。
 - 昨年度に引き続き、かながわ土地建物保全協会のライフフリー助成を受け、基盤強化のために活用しました。
 - イオンの黄色いレシートキャンペーンの贈呈を受け、事務用品などの購入に当てました。来年度も引き続き参加します。
 - 年間を通じて経費削減に努めました。
 - 中・長期計画は随時見直しました。
- 5) 理事会と定例会を毎月開催し、参加型で問題解決をはかるとともに、研修と共育に努めました。

毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。

- 理事会と定例会を毎月開催しました。定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々
の問題点を共有するとともに、解決に向け話し合いました。定例の第1水曜日のほか、
参加率をより高めるため土曜日昼間の開催を3回試みしました。

- 定例会の議事録をメールで活動メンバー全員に送信し、情報の共有化を図っています。
- 前回総会後の研修で「W.Coの価値と原則」について学びました。今年1月には改定案のオンライン説明会に参加し、その後、資料を全員で共有しましたが、理解を深めるまでには至っていません

6) 地域への情報提供をおこないました。

- 3月に「ケアびーくる通信 No17」を作成し、料金改定のお知らせと共に利用者に配布しました。
- ホームページの充実やブログの更新（ブログ更新：4回）に努めました。
- 日本財団「CANPAN」（NPOなどの公益活動をしている団体に関する全国規模のデータベース）への団体情報の更新を行いました。
- 7月に（NPO）「全員参加による地域未来創造機構」の取材を受けました。ケアびーくるの活動が団体紹介として掲載されました。
- 朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載していただきました（掲載：12回）。これを見ての利用の申し込みもありました。
- 市および近隣市での、かながわ移動ネットの大臣認定運転者講習会に講師の派遣と福祉車の提供を行いました。
- 隣接市の新設NPOに、日本財団への申請についてレクチャーしました。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 34人
- ・対象者 移動制約者 376人（のべ利用者3840人）
- ・支出額 11,851,546円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 34人
- ・対象者 移動制約者 70人（のべ利用者699人）
- ・支出額 3,093,272円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

- ・内容 ホームページの充実、ブログ更新（年4回）
新聞折り込みチラシへの広告掲載（年12回）

かながわ移動ネット主催、運転者講習会に講師の派遣・車両の提供
(2回)

- ・日時 随時
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 9人
- ・対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
ワーカーズ・コレクティブの働き方に興味のある方
- ・支出額 24,866円

③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

※ 今年度はその他の事業を実施していません。